

12/31 2009



Japan Music Education Society News Letter

第38号

No. 38

日本音楽教育学会ニュースレター

目次

1 報告・お知らせ	
1-1 平成 21 年度第 2 回常任理事会報告	2
1-2 平成 21 年度総会報告	6
1-3 平成 21 年度第 3 回常任理事会・第 2 回理事会報告	14
1-4 「役員選出のための理事会」報告	17
1-5 編集委員会からのお知らせとお願い（権藤敦子）	18
1-6 学会賞審査委員会からの報告（吉田孝）	21
1-7 国際交流委員会報告（今田匡彦）	22
1-8 「40 年の歩み」の編纂を終えて（岩崎洋一）	23
2 第 40 回大会（広島大学）の報告	
2-1 第 40 回日本音楽教育学会大会を終えて（吉富功修・三村真弓） ..	24
2-2 第 40 回全国大会に参加して（樫下達也）	25
3 海外トピックス	
3-1 オーストラリアから学会のご案内（松信浩二）	27
4 会員便り	
4-1 名誉会員から（高萩保治・富永定・山本文茂）	28
4-2 学会賞を受賞して（勝岡ゆかり）	31
5 新刊紹介	
5-1 『音楽教育学の未来』（寺田貴雄）	32
6 事務局より	
6-1 お知らせ	33
編集後記	

1 報告・お知らせ

1-1 平成 21 年度第 2 回常任理事会報告

日 時：平成 21 年 8 月 2 日（日）13：00～16：30

場 所：学術総合センター 会議室 201

出席者：吉田，北山，齊藤，小川，杉江，田中，三村，八木，津田（記録）

【会務報告】（齊藤事務局長）

平成 21 年 5 月 17 日以降の会務について、以下のように報告された。

5 月 17 日 平成 21 年度第 1 回常任理事・理事会

6 月 7 日 第 2 回選挙管理委員会

6 月 30 日 音楽教育学 第 39 巻第 1 号発送，ニュースレターNo.36 発送

7 月 25 日 第 3 回選挙管理委員会（第 19 期会長・理事選挙開票）

【報告事項】

1. 選挙関係について

1) 事実経過報告（齊藤事務局長）

・選挙管理委員会からの文書「会長再選挙に関してのお詫びと経過報告」，事務局長，事務局からの文書「第 19 期選挙に関するお詫び」が配布され，文書をもとに会長再選挙に関してのお詫びと経過報告が行われた。

2) 責任者の処分について（吉田会長）

・事務局長，事務局員に対して文書で嚴重注意を行うことが提案され，了承された。また，理事会から会長，副会長に対して嚴重注意を行うことを次期の理事会に諮ることが了承された。

2. 選挙結果報告（齊藤事務局長）

・選挙結果について，選管からの報告文書をもとに報告された。

3. 第 40 回広島大会について

1) プログラム（杉江理事）

・大会日程について，大会プログラム案をもとに報告された。

2) 常任理事会企画 (杉江理事, 小川理事)

・二つのプロジェクト研究について, 文書をもとに報告された。

3) 実行委員会企画 (三村理事)

・基調提案&講演, ワークショップについて, 大会プログラム案をもとに報告された。

4) 40周年記念行事について (吉田会長)

・40周年記念行事について説明された。

4. 各委員会報告

1) 編集委員会 (八木理事)

・権藤委員長作成の文書をもとに, 学会誌についての報告と理事会への要望について説明された。研究倫理に対処できる委員会を学会内に設置するという編集委員会からの要望について話し合われた。

2) 国際交流委員会 (田中理事)

・藤井委員長作成の文書をもとに, 韓日合同音楽教育セミナーの準備状況, ミン・キョンファン会長の特別講演 (第40回大会), 韓国音楽教育学会との資料交換, APSMER 上海大会終了について報告された。韓日合同音楽教育セミナーについては, 実行委員会を組織することが承認された。

3) 音楽文献目録委員会 (齊藤事務局長)

・山下委員, 関口委員作成の議事録をもとに報告された。運営が金銭的に厳しい状況にあることから, 「寄付依頼の文面を学会のホームページに掲載すること」「総会において委員会の窮状を訴える文面と RILM 国際版への貢献を示す資料を配布すること」について審議してほしいという依頼があり, 承認された。

5. 第41回埼玉大会について (八木理事)

・10月の初旬をめどに開催日程の調整をする旨, 報告された。

6. 第42回大会について (吉田会長)

・近畿地区の理事, 関西学院大学関係者の内諾を得て, 関西学院大学での開催を検討中と報告された。

7. その他

1) 今後の予定 (齊藤事務局長)

平成 21 年	
8 月下旬	音楽教育実践ジャーナル Vol.7, No.1 発行 ニューズレター第 37 号 発行 第 40 回大会プログラム発送
10 月 2 日	第 3 回編集委員会 第 3 回常任理事会・第 2 回理事会
10 月 3～4 日	第 40 回大会・総会・40 周年記念式典 会場：広島大学
12 月下旬	音楽教育学第 39 巻第 2 号 発行 ニューズレター第 38 号 発行
平成 22 年度	
2 月中旬	平成 21 年度第 4 回編集委員会 平成 21 年度第 4 回常任理事会
3 月末日	音楽教育実践ジャーナル Vol.7, No.2 発行 ニューズレター第 39 号 発行 平成 21 年度会計決算

2) 夏期ワークショップ，ゼミナールの開催年について

・杉江理事から，夏期ワークショップ，ゼミナールの開催年について確認があった。夏期ワークショップは独立会計のイベントであり，その開催については執行部マターであることが確認された。

3) その他

・津田理事より，ニューズレター37号の進捗状況，40周年記念誌の進捗状況，齊藤事務局長から，学会ホームページがリニューアルされたことが報告された。

【審議事項】

1. 平成 22 年度予算案について（田中理事）

・第 1 回理事会での意見を受けて訂正された予算案が提案され，これを理事会に提案することが承認された。現在の状況では予備費の減額は厳しいことをふまえて，会費の値上げか事業縮小の措置を講ずる必要について説明することが確認された。

2. 学会活動検討委員会答申について（吉田会長）

・答申について説明され，今後のあり方について議論された。答申を理事会に諮ることが承認された。

3. 名誉会員について（吉田会長）

・次の提案があり，承認された。

- (1) 70 歳以上の学会員，会長経験者を名誉会員として推薦する。
- (2) 上記の条件でなくても，各会員から推薦があればその都度検討する。
- (3) 名誉会員は，理事会で提案し総会で承認を得る。

4. 新入会員及び退会者について（齊藤事務局長）

- ・以下の報告があり，承認された。

新入会員 27 名，申し出退会者 5 名，自然退会者 61 名
平成 21 年 7 月 31 日現在 正会員数 1507 名

新入会員（平成 21 年 5 月 17 日以降）

会員番号	氏 名	所 属 先
3631	長谷川 諒	広島大学（院生）※学生会員からの移行
3632	藤田 桂子	名古屋女子大学短期大学部
3633	久富 さよ子	中村学園大学短期大学部
3634	嶋田 春奈	立命館大学（専門契約職員）
3635	水野 恵理子	奈良女子大学（院生）
3636	加藤 美絵子	高知大学（院生）
3637	朝雲 知子	兵庫教育大学（院生）
3638	大久保 はるか	宮城教育大学（院生）
3639	平岩 幸	※学生会員からの移行
3640	田中 啓子	信州大学（院生）
3641	秋葉 桃子	東京藝術大学（院生）
3642	吉田 直子	京都教育大学大学院（研究生）
3643	平野 剛	大阪大学（院生）
3644	水谷 早紀	東京音楽大学（院生）
3645	斎藤 紀子	筑西市立関城中学校
3646	毛利 彩夏	※学生会員からの移行
3647	根路銘孝子	宜野湾市立志真志小学校
3648	竹下 裕来	大阪教育大学（院生）
3649	関野麻里子	日本女子大学（院生）
3650	三次 摂子	茨城大学（院生）
3651	野田 浩司	長崎大学教育学部附属小学校
3652	熊谷 美紀	大阪成蹊短期大学
3653	錦 かよ子	三重中京大学短期大学部
3654	岡崎 美夏	山口大学（院生）
3655	河村 仁美	山口大学（院生）
3656	南 亜依花	※学生会員からの移行
3657	長谷川愛子	日本福祉大学

5. その他

1) 後援依頼

- ・くらしき作陽音楽大学から音楽療法シンポジウムへの後援依頼があり，承認された。

<次回会議の予定>

- ・第 3 回常任理事会，第 2 回理事会 10 月 2 日（金）14:00～ ※広島大学

1-2 平成21年度総会報告

日時：平成21年10月3日（土）17:30～18:15

場所：広島大学社会科学部研究科講義棟B257

開会に先立ち、齊藤事務局長より、参加者116名、委任状272名、総数388名であることが確認された。会員総数の5分の1の定足数（303名）を満たしており、総会の成立が報告された。

1. 開会の辞（北山副会長）
2. 挨拶（吉田会長）
3. 議長選出 伊野義博会員（新潟大学）が選出された。
4. 報告事項

1) 会務報告（齊藤事務局長）

- ・総会資料1に基づき、以下の通り、昨年度大会以降の会務が報告された。
（平成21年7月までの会務は既掲済なので、ここでは省略）

8月 2日	平成21年度第2回常任理事会（学術総合センター）
8月 8日	平成21年度第2回編集委員会（立教大学）
8月28日	第2回学会賞審査委員会（関西学院大学）
8月31日	音楽教育実践ジャーナルVol.7, No.1 発行 ニュースレター 第37号 発行 第40回全国大会プログラム発送
10月 2日	平成21年度第3回常任理事会・第2回理事会（広島大学） 平成21年度第3回編集委員会（広島大学）
10月 3日	次期役員選出のための理事会（広島大学）
10月 3日～4日	第40回大会、40周年記念行事（広島大学）

2) 選挙報告

- ・細田選挙管理委員長より、第19期会長・理事選挙の経過報告とともに、会長再選挙に関してのお詫びと、経過報告・再発防止についての説明があった。
- ・吉田会長より、まず会長再選挙に関してのお詫びがあった。その上で、責任について明確にするために、事務局員に対して文書による嚴重注意処分を会長名で行ったこと、事務局員に対する監督責任から、事務局長に対して文書による嚴重注意処分を会長名で行ったことが報告された。

- ・八木常任理事より、事務局に対する監督責任から、会長、副会長に対して文書による嚴重注意処分を理事会名で行ったことが、その文面とともに報告された。

- ・会長、副会長、事務局長が揃って陳謝した。

3) 編集委員会報告(権藤委員長)

- ・投稿規程の改訂に関わる説明があった。次年度のジャーナルの特集テーマが「日本語をどのようにくうたう>か」に決まったことが報告され、あわせて原稿募集の呼びかけがあった。

4) 国際交流委員会報告(藤井委員長)

- ・「韓日合同音楽教育セミナー」(2010年1月9日・10日)、「ISME第29回世界大会」(2010年8月)の案内と参加の呼びかけが行われた。ホームページで随時情報を更新していく旨、報告された。

5) 40周年記念論文集編集委員会報告(安田委員長)

- ・会員の協力によって大会に間に合うように刊行でき、好評販売中であることが報告された。

6) 40周年記念誌作成委員会報告(津田委員)

- ・12月に発送できるように準備を進めていることが報告された。

7) 音楽文献目録委員会報告(関口委員, 山下委員)

- ・音楽文献目録の最新号は本大会には間に合わなかったが、バックナンバーが受付で販売されている旨、報告された。音楽文献目録委員会の窮状と個人寄付のお願いについて呼びかけと説明がなされた。

5. 審議事項

1) 平成20年度会計報告(田中理事)・監査報告(奥会計監事, 今川会計監事)

- ・総会資料3(別に掲載)に基づき、平成20年度会計報告が行われた。平成20年度の大きな支出として、事務所の移転、事務局員の拡充があったことが報告された。監査の結果、会計報告に間違いがないことが報告され、平成20年度会計報告が承認された。

2) 平成21年度補正予算(田中理事)

- ・総会資料4(別に掲載)に基づき、平成21年度補正予算の説明が行われ、補正予算が承認された。

3) 平成22年度事業計画(齊藤事務局長)

- ・総会資料5に基づき、以下の事業計画が示された。

平成 22 年	
4 月初旬	平成 21 年度会計監査会
5 月中旬	平成 22 年度第 1 回常任理事・理事会 平成 22 年度第 1 回編集委員会
6 月30日	音楽教育学第 40 巻第 1 号<通巻 79 号>発行 ニュースレター第 40 号発行
7 月初旬	平成 22 年度第 2 回常任理事会 平成 22 年度第 2 回編集委員会
8 月31日	音楽教育実践ジャーナル Vol.8, No.1 発行 ニュースレター 第 41 号 発行 第 41 回大会プログラム発送
9 月25～26日	平成 22 年度第 3 回常任理事会・第 2 回理事会（埼玉大学） 平成 22 年度第 3 回編集委員会（埼玉大学） 第 41 回大会（埼玉大学）
12月31日	音楽教育学第 40 巻第 2 号<通巻 80 号>発行 ニュースレター第 42 号発行
平成 23 年	
2 月中旬	平成 22 年度第 4 回常任理事会 平成 22 年度第 4 回編集委員会
3 月31日	音楽教育実践ジャーナル Vol.8, no.2 発行 ニュースレター第 43 号発行

・次年度については、学会活動検討委員会の答申とも関連することから、学会活動検討委員会の答申を踏まえた学会活動の改善について、会長から説明が行われた。その後で、平成22年度事業計画が承認された。

4) 学会活動の改善について（吉田会長）

・学会活動検討委員会を設け、加藤富美子会員、岩井正浩会員、安田寛理事、八木正一理事の4人で検討していただき、5つの事項について答申をいただいた。

(1) 学会誌について

・答申について関係委員会に読んでいただいたところ様々な意見があり、再検討中。

(2) 事務局について

・スリム化を行うということで勤務体制を検討するなどの方向で検討中。

(3) 地区例会について

・地区例会費については、各地区で予算書をつくりそれをもとに補助金を請求するという形にしたい。

(4) 出発物電子化について

・予算上の問題だけでなく、積極的に推進する可能性を検討している。その具体化については次期役員に引き継いでいきたい。

(5) 夏期ワークショップ等の行事について

・ワークショップは、申し出によって開催するという方向を重視したい。学会ゼミナール等については、それぞれの年次ごとにその意義を確認しながら開催を決定するという方向にしていきたい。

5) 平成22年度予算案について（田中理事）

・総会資料6（別に掲載）に基づいて説明が行われ、原案通り承認された。

6) 第41回大会について（八木理事）

・平成22年9月25・26日、埼玉大学にて開催。

・埼玉大学の八木理事、伊藤会員より挨拶があり、次年度の開催について拍手で承認された。

7) 第42回大会候補地について（吉田会長）

・近畿地区で調整中である旨、報告された。

8) 次期役員について（加藤次期会長）

・次の人事案が提案され、承認された。（敬称略）

副会長：有本真紀，事務局長：今川恭子

常任理事：今田匡彦，阪井恵，島崎篤子，坪能由紀子，南曜子，奥忍，
杉江淑子，小川容子

会計監事：田中健次，本多佐保美

※なお、理事の互選により当日常任理事に選出された阪井恵氏（欠席）が、総会後に一身上の都合により常任理事就任を辞退した。次期理事会はこれを了承した。

9) 名誉会員の推薦について（吉田会長）

・年齢と会長経験等を考慮して次の3名が提案され、承認された。（敬称略）

高萩保治（第10-11期会長），富永定（第12-13期会長），山本文茂（第15期会長）

10) その他（齊藤事務局長）

6. 議長解任

7. 閉会の辞（北山副会長）

平成20年度会計報告

I 一般会計

収 入			支 出		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
前年度繰越金	5,482,619	5,482,619	大会運営費	1,500,000	1,648,428
正会員会費	10,584,000	9,842,000	大会本部経費	700,000	700,000
	(7000×1512)		事務局経費	600,000	813,320
学生会員会費	0	36,000	プロジェクト研究	200,000	135,108
団体会員会費	0	30,000	学会誌費	2,730,000	1,724,972
賛助会員会費	500,000	610,000	音楽教育学発行費	1,380,000	1,128,170
学会誌売上金	350,000	645,620	実践ジャーナル発行費	1,350,000	596,802
本誌代		539,920	ニュースレター費	450,000	425,880
送料収入		105,700	例会運営費	700,000	363,000
大会参加費	1,200,000	1,495,500	通信・郵送費	1,200,000	1,246,688
	(4,000×300)		会議費	50,000	17,684
雑収入	20,000	705,683	旅費・交通費	1,800,000	2,030,375
			翻訳費	50,000	0
			事務局費	5,820,000	5,704,330
			事務費	620,000	486,822
			人件費	2,200,000	2,760,740
			事務局運営費	3,000,000	2,456,768
			事務保険費積立金	100,000	100,000
			分担金	220,000	200,000
			選挙積立金	250,000	250,000
			ゼミナル基金	150,000	150,000
			研究出版基金	800,000	800,000
			学会基金	200,000	200,000
			予備費	700,000	72,050
			小 計	16,720,000	14,933,407
			次年度繰越金	1,416,619	3,914,015
計	18,136,619	18,847,422	計	18,136,619	18,847,422

II 研究出版基金 現在高 ¥3,413,648

平成19年度までの積立金	¥3,113,648
平成20年度積立金	¥800,000
40周年記念論文集運営費	¥-500,000

III 学会基金 現在高 ¥2,300,000

平成19年度までの積立金	¥2,100,000
平成20年度積立金	¥200,000

IV ゼミナール基金 現在高 ¥1,212,755

平成19年度までの積立金	¥951,918
平成20年度積立金	¥150,000
日韓ゼミ返金	¥109,538
利息	¥738
利息	¥561

V 事務保険費積立金 現在高 ¥99,943

平成19年度までの積立金	¥20,743
平成20年度積立金	¥100,000
平成20年度事務保険費	¥-20,800

VI 選挙積立金 現在高 ¥254,518

平成19年度までの積立金	¥4,518
平成20年度選挙積立金	¥250,000

◎ 平成20年度決算を上記の通り報告いたします。

平成21年4月1日 会計担当
田中 健次
本多 佐保美

◎ 上記の通り相違ないことを監査いたしました。

平成21年4月1日 会計監事
奥 忍
今川 恭子

平成21年度補正予算(案)

I 一般会計

収入		支出	
科 目		科 目	
前年度繰越金	3,914,015	大会運営費	1,700,000
正会員会費	10,220,000	大会本部経費	700,000
	(7,000×1460)見込計算	事務局経費	800,000
学生会員会費	0	プロジェクト研究	200,000
団体会員会費	30,000	学会誌費	2,730,000
賛助会員会費	600,000	音楽教育学発行費	1,380,000
学会誌売上金	350,000	実践ジャーナル発行費	1,350,000
本誌代	0	ニュースター費	450,000
送料収入	0	例会運営費	700,000
大会参加費	1,100,000	通信・郵送費	1,200,000
雑収入	20,000	会議費	30,000
		旅費・交通費	1,900,000
		翻訳費	50,000
		事務局費	4,020,000
		事務費	320,000
		人件費	2,200,000
		事務局運営費	1,500,000
		事務保険費積立金	50,000
		分担金	220,000
		選挙積立金	200,000
		ゼミナル積立金	100,000
		研究出版基金	500,000
		学会基金	200,000
		予備費	2,184,015
		小 計	
計	16,234,015	計	16,234,015

平成22年度予算

収入		支出	
科 目		科 目	
前年度繰越見込金	2,184,015	大会運営費	1,600,000
正会員会費	10,605,000	大会本部経費	700,000
	(7,000×1515)見込計算	事務局経費	700,000
学生会員会費	40,000	プロジェクト研究	200,000
団体会員会費	30,000	学会誌費	2,730,000
賛助会員会費	600,000	音楽教育学発行費	1,380,000
学会誌売上金	450,000	実践ジャーナル発行費	1,350,000
本誌代	0	ニュースレター費	250,000
送料収入	0	例会運営費	500,000
大会参加費	1,300,000	通信・郵送費	1,200,000
雑収入	20,000	会議費	30,000
		旅費・交通費	1,800,000
		翻訳費	50,000
		事務局費	3,820,000
		事務費	320,000
		人件費	2,000,000
		事務局運営費	1,500,000
		事務保険費積立金	0
		分担金	220,000
		選挙積立金	250,000
		ゼミナル積立金	100,000
		研究出版基金	0
		学会基金	200,000
		予備費	2,479,015
計	15,229,015	計	15,229,015

1-3 平成21年度第3回常任理事会・第2回理事会報告

日 時：平成21年10月2日（金）14:00～18:00

場 所：広島大学 学士会館第1会議室

出席者：北山，齊藤，佐野，嶋田，杉江，田中，津田，坪能，尾藤，藤澤，
降矢，三村，八木，安田，吉田，吉富

欠席者：岩崎，新山王，筒石，本多

記 録：小川

【会務報告】

・齊藤事務局長から，平成21年5月17日以降の会務報告があった。

5月17日	平成21年度第1回常任理事・理事会
6月7日	第2回選挙管理委員会
6月30日	音楽教育学 第39巻第1号発送，ニュースレターNo.36 発送
7月25日	第3回選挙管理委員会（第19期会長・理事選挙開票）
8月2日	平成21年度第2回常任理事会
8月8日	平成21年度第2回編集委員会，第2回学会賞審査委員会
8月28日	音楽教育実践ジャーナル Vol.7, No.1 発行 ニュースレターNo.37 発行
8月31日	第40回プログラム発行
10月2日	平成21年度第3回常任理事会・第2回理事会 平成21年度第3回編集委員会
10月3日	次期役員選出のための理事会
10月3日～4日	第40回大会，40周年記念行事

【報告事項】

1. 広島大会について

（1）実行委員会から（吉富）

・吉富実行委員長より挨拶があり，第40回大会の準備状況について報告があった。

（2）常任理事企画（杉江，小川）

・広島大会で行われる「〈現代音楽のゆくえ〉と音楽教育」（杉江担当）と「唱法再考」（小川担当）についてそれぞれ概要が述べられた。

（3）40周年記念行事について（津田）

・津田常任理事より，3日に行われる記念行事のスケジュールについて説明が

あった。

2. 選挙関係について（齊藤）

- ・齊藤事務局長より、会長・理事選挙の経過報告資料についての確認を行った。

3. 各委員会報告

（1）編集委員会（八木）

- ・八木常任理事より、資料に基づき、学会誌、実践ジャーナルの応募状況、採択状況、実践ジャーナル通算 15 号の特集テーマについての報告がされた。

（2）国際交流委員会（田中）

- ・田中常任理事が資料に基づき、韓日合同音楽教育セミナーの概要について報告し、その後、この韓日音楽教育学会共同開催に際し、予算措置を認めてほしい旨提案し、ゼミナール基金等の中から拠出することが理事会で承認された。

（3）40 周年記念論文集委員会（安田）

- ・安田委員長より、記念論文集が刊行されたこと、および本広島大会での販売を行う旨の報告が行われた。

（4）40 周年記念誌作成委員会（津田）

- ・津田常任理事が岩崎委員長の代理として経過報告を行った。12 月の学会誌発送に間に合うようにしたい。

（5）音楽文献目録委員会（齊藤）

- ・齊藤事務局長より、総会で寄付をお願いする予定である旨報告があった。

（6）学会賞審査委員会報告（吉田）

- ・吉田会長より、第一回学会賞受賞者が勝岡（藤波）ゆかり氏に決定し、広島大会で表彰することに決定した旨の報告があった。

4. 地区例会報告（安田）

- ・近畿地区担当理事より 5 月 30 日和歌山大学で開催された地区例会についての報告があった。

5. その他

（1）ニュースレターについて（嶋田）

- ・嶋田常任理事より、38 号について関係者に原稿を依頼し、準備を行っていることが報告された。

（2）22 年度予算についての金額の訂正（齊藤）

- ・齊藤事務局長より報告があった。

（3）その他（齊藤）

- ・齊藤事務局長より今後の予定について、東京学芸大学に所蔵されていた学会資料について、欠席理事についての報告があった。

【審議事項】

1. 平成 20 年度会計報告・監査報告（田中）（総会資料 3）
 - ・田中常任理事より資料に基づき報告があり，承認された。
2. 平成 21 年度補正予算について（田中）（総会資料 4）
 - ・田中常任理事より資料に基づき説明があり，承認された。
3. 平成 22 年度事業計画（齊藤）（総会資料 5）
 - ・齊藤事務局長より資料に基づいて説明があり，承認された。
4. 平成 22 年度予算案について（田中）（総会資料 6）
 - ・田中常任理事より資料に基づいて説明があり，承認された。
5. 第 41 回大会について（八木）
 - ・平成 22 年 9 月 25，26 日埼玉大学で開催が提案され，承認された。
6. 第 42 回大会について（吉田）
 - ・近畿地区の複数の大学を候補として検討中である。
7. 学会活動検討委員会答申について（吉田）
 - ・検討委員会からの 5 つの提案について吉田会長より資料に基づき説明があり，承認された。
8. 名誉会員について（吉田）
 - ・高萩保治，冨永定，山本文茂 3 氏を推薦することで承認された。
9. 新入会員，退会会員について（吉田）
 - ・資料の通り，齊藤事務局長より報告があり，承認された。

新入会員及び退会者

新入会員 8 名，申し出退会者 2 名

平成 21 年 9 月 25 現在，正会員数 1515 名

新入会員（平成 21 年 8 月 2 日以降）

会員番号	氏名	所属先
3658	丸山 彩	立命館大学（院生）
3659	中村 愛生	長崎市立稲佐小学校
3660	浅田 剛史	上越教育大学（院生）
3661	高旗 健次	広島大学大学院
3662	野澤真由子	京都教育大学（院生）
3663	若狭 那美	山口大学（院生）
3664	松井 孝夫	東京学芸大学附属国際中等教育学校
3665	呉屋 淳子	名古屋大学（院生）

【その他】

・今回の会長選挙の問題に関して，八木常任理事より，理事会から会長，副会長への厳重注意の文面が読み上げられ，理事会として承認された。

1-4 「役員選出のための理事会」報告

日 時：平成 21 年 10 月 3 日（土）12:30～13:30

場 所：広島大学（東広島キャンパス）学士会館第 1 会議室

出席者：加藤富美子，寺田貴雄，今田匡彦，有本真紀，今川恭子，坪能由紀子，
西島央，山本幸正，後藤丹，南曜子，奥忍，杉江淑子，田中多佳子，
小川容子，三村真弓，津田正之

欠席者：阪井恵，島崎篤子，筒石賢昭，新山王政和，木村次宏
（理事 20 名中出席 15 名，委任状 5 名）

議事

1. 次期副会長の指名

- ・次期会長から，有本真紀を副会長に指名するとの報告があり了承した。

2. 事務局長の選出

- ・今川恭子を事務局長に選出した。

3. 常任理事の選出

- ・以下の 8 名を常任理事に選出した。

今田匡彦，阪井恵，島崎篤子，坪能由紀子，南曜子，奥忍，杉江淑子，小川容子
※学会会則では常任理事 9 名と記されているが，常任理事は「9 名まで」と解釈される。なお，理事の互選により当日常任理事に選出された阪井恵氏（欠席）が，総会後に一身上の都合により常任理事就任を辞退した。次期理事会はこれを了承した。

4. 会計監事の委嘱

- ・田中健次氏，本多佐保美氏を会計監事として推薦することを決定した。

5. 地区代表理事の選出

- ・各地区の代表を互選により次のように決定した。

寺田貴雄（北海道），今田匡彦（東北），山本幸正（関東），後藤丹（北陸），
新山王政和（東海），田中多佳子（近畿），三村真弓（中国四国），木村次宏（九州）

6. 任期開始までの課題について

- ・常任理事と理事の役割分担については，今後メール審議などを通じて決定していく。

7. 今後の予定

- ・平成 22 年度第 1 回理事会は，平成 22 年 4 月に開催予定。

1-5 編集委員会からのお知らせとお願い

編集委員会委員長 権藤敦子

1. 『音楽教育学』について

『音楽教育学』第39巻第2号をお届けします。第2号は毎年大会特集として編集しておりますが、とりわけ、今年度は本学会40周年を記念する講演も行われ、多彩な大会報告となりました。お忙しいなかご執筆いただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

第40巻第1号以降の号については、現在、企画・編集を行っております。論文、報告、研究動向、書評（論文）、反論等、皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。また、書評（論文）につきましても、皆様のご投稿に加えて編集委員会でも書評対象を検討しておりますが、音楽教育学の発展に寄与すると思われる新刊の図書および視聴覚資料（過去5年以内に刊行されたもの）がありましたら、編集委員会までご推薦下さい。分野等を考慮しながらより広く学会誌に取り上げてゆきたいと思っております。

2. 『音楽教育実践ジャーナル』について

『音楽教育実践ジャーナル』vol.7 no.2（通巻14号）特集へのご応募どうもありがとうございました。現在、特集「学校器楽教育の過去・現在・未来」というテーマのもとでの論考10本と、自由投稿論文3本とで構成しながら編集作業に取り組んでおります。3月末にはお届けできる予定です。

また、『音楽教育実践ジャーナル』vol.8 no.1（通巻15号）の特集テーマについて決定しました。お知らせ末尾に原稿募集のご案内を掲載しております。趣旨をご理解いただいてたくさんの原稿をお寄せいただきますよう、お待ちしております。投稿規程の改正にともない、従来よりも早く3月15日（月）を締切としますので、ご投稿の際にはご注意ください。

3. 平成21年度第2回編集委員会（8月8日）と第3回編集委員会（10月2日）のご報告

第2回委員会において、吉田会長から伝えられた学会活動検討委員会答申のうち、学会誌と編集委員会に関わる部分について話し合いを行いました。学会誌は学会にとって根幹となる存在であるという自覚と責任感をもって、編集委

員会では投稿規程改正をはじめとした学会誌2誌の改善、編集委員会業務の見直し等、課題の解決に向けて委員全員で真摯に取り組んでいる途上にあります。今後も引き続き一層の努力を継続して参りますが、そうした取り組みの成果を正当に評価した上での改革、改善を行っていただくよう、第2回委員会での議論をふまえて、会長、理事あてに申し入れを行いました。

第2回委員会での投稿原稿の審議では、『音楽教育学』投稿論文4件のうち1件は研究論文として掲載決定、2件は研究報告として再提出をお願いすることになり、『音楽教育実践ジャーナル』自由投稿4件のうち1件掲載決定、1件は修正後再提出をお願いすることとなりました。

第3回編集委員会では、『音楽教育学』研究論文1件と研究報告1件(再提出)の審議を行い、研究報告1件の掲載を決定しました。『音楽教育実践ジャーナル』特集投稿には2件の応募を頂き、1件を特集投稿論文、1件を提言として掲載することを決定、自由投稿では、新規応募論文1件と再提出された論文1件を採択しました。また、『音楽教育学』研究論文2件、および、『音楽教育実践ジャーナル』自由投稿1件について新たに査読手続きに入りました。

なお、本年度第4回編集委員会は1月24日(日)に開催予定です。

『音楽教育実践ジャーナル』vol.8 no.1 (通巻15号) 原稿募集！

特集テーマ 日本語をどのように <うたう> か

【趣旨】

私たちがうたう歌の多くは日本語による歌詞です。しかし、ジャンルにより曲により、その表現にふさわしい日本語の<うたいかた>はさまざまに異なってくることでしょう。

我が国の伝統的な歌唱の多くは豊かな地声でうたわれませんが、その歌詞の一語一語の発音のしかたは日本音楽の種目ごとに異なっています。これから学校で伝統的な歌唱に取り組むとき、種目ごとに異なる日本語の発音をどのように扱ったらいいのでしょうか。一方、芸術音楽としての「日本歌曲」では、洋楽の発声でいかに日本語らしい響きでうたうかについて長年にわたって研究がなされ、学校における合唱指導でも日本語の発音の指導が熱心に行われてきまし

た。たとえば、口を大きくあけてアイウエオの母音の口形をはっきりと区別して発音するように指導することもありますし、これに対して、日本語の話言葉の発音の特性を生かして口をあまり開けずにうたう方がずっと日本語らしく聴こえるという研究も出ています。ポップスではどうなのでしょう。子どもたちの遊びうたではどうなのでしょう。

今回の特集では、歌の指導における日本語の扱いかたに焦点をあて、それぞれのジャンルや曲にふさわしい日本語の表現の在りようをとらえた、これからの歌唱指導を考えていきます。幼児教育から大学までのさまざまな実践、専門教育、教員養成などいろいろな立場から、「日本語をどのようにくうたうか」というその一点について、これからの歌唱指導が縦横に論じられるような特集にしていきたいと思います。

たくさんの方々からのご投稿をお待ちしています。

- 投稿締切 3月15日(月) 消印有効
- 分量・書式 A4判用紙に横書き、21字×39行×2段組、12ページ以内
タイトル、図表、写真等のスペースも含めます。
- 送付先 〒184-8799 小金井郵便局私書箱26号
日本音楽教育学会 編集委員会
- 投稿にあたっては、学会ホームページ上の「論文募集」ボタンから「『音楽教育実践ジャーナル』投稿規程」「投稿の手引き」「音楽教育実践ジャーナル用テンプレート」を参照の上、規程に則ってご執筆いただきますようお願いいたします。
- 【別紙1】投稿申込書と【別紙2】投稿者用チェックリスト各1部（HPおよび学会誌巻末掲載）を同封し、原稿4部を郵送でお送りください。
- 採択された原稿については、編集委員会から5月末日までに投稿者に連絡します。審議の結果によっては、修正をお願いする場合があります。
- ご不明の点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

(問い合わせ先) 日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕

jmesedit@hiroshima-u.ac.jp Tel.& Fax. 082 (424) 7137

1-6 学会賞審査委員会からの報告

審査委員会委員長 吉田 孝

1. 2007年度総会（2007年11月）において、理事会より以下のことが提案され了承された。

学会賞について

- 1) 学会40周年を記念し、日本音楽教育学会に学会賞をおく。
- 2) 2年に1回、学会賞の受賞者を決定する。
- 3) 過去2年間に『音楽教育学』及び『音楽教育実践ジャーナル』に掲載された研究論文の中から1編を選ぶ。
- 4) 審査委員は、当該期間の学会誌編集委員長、学会誌編集委員で常任理事、理事の経験者の中から、研究分野・方法を考慮して、会長が6名（会長を加え7名）を指名し、常任理事会で決定する。
- 5) 審査委員長は委員により互選する。
- 6) 第1回学会賞について

(1) 第1回の受賞論文は、2005年度から2008年度にかけて（過去4年間）『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』に掲載された研究論文の中から1編を選ぶ。

(2) 審査委員

小川 容子（2007年度編集委員長）

木村 次宏（2005-2006年度編集委員長）

坪能由紀子

村尾 忠廣

安田 寛

吉田 孝（2008-2009年度会長）

2008-2009年度編集委員長

（その後、編集委員会で権藤敦子氏が選出される）

(3) 審査委員長は委員により互選する。

2. 2009年2月23日、第1回委員会が開催され次のことが決定された。

1) 委員長は現会長の吉田とする。

2) 受賞対象について

「(1) 第1回の受賞論文は、2005年度から2008年度にかけて（過去4年間）『音楽教育学』及び『音楽教育実践ジャーナル』に掲載された研究論文の中から1編を選ぶ」について次のように確認した。

(1) 『音楽教育学』については、「研究論文」を対象とする。

(2) 『音楽教育実践ジャーナル』に関しては、研究論文の規程がないため審査委員が研究論文と見なす論文について対象とする。

(3) 次回の委員会までに候補論文より3編を選び、順位を付けて投票する。

(4) 投票結果を参考に、第2回審査委員会で議論し、学会賞を決定する。

3. 2009年8月28日、第2回審査委員会を開催し、次のように決定した。

1) 学会賞論文は次のとおりとする。

藤波ゆかり「箏曲教習の歴史における楽譜普及の過程 - 『三曲』誌上の楽譜をめぐる論から-」『音楽教育学』, 37-1, 2007

2) 選考理由は次のとおりである。

当論文は、箏曲教習の歴史という非常に重要で大きなテーマに、「楽譜普及」という切り口からアプローチした論文である。研究の目的、方法、論の構成とも、緻密で明快であり、音楽教育学の創造・発展に資するものである。内容、形式において学術論文としての条件をすべて備え、相対的にもすぐれていると判断し、第1回学会賞に決定した。

1-7 国際交流委員会報告

音楽教育政策、文化、メディアを多角的に議論

ISME 世界大会 2010 (北京) のコミッション・セミナー

「音楽政策：文化、教育、そしてメディア」の紹介

ISME World Conference 2010: Commission Seminars

ISME Commission on Music Policy: Cultural, Educational and Media

17th International Seminar, 27-30 July 2010

Henan University, College of Arts, Kaifeng, China

今田匡彦 (弘前大学)

ISME コミッション・セミナーの一つ“Music Policy: Cultural, Educational and Media”は、2010年7月27日から30日河南省開封 (Kaifeng) の海南大学 (Henan University, College of Arts) にて開催される。

2008年に開催されたボローニャ (イタリア) でのセミナーを踏まえ、その後6人のコミッショナー、Scott Goble (カナダ, co-chair), Rita Lai Chi Tip (香港, co-chair), Schalk Fredericks (南アフリカ), Neryl Jeanneret (オースト

ラリア), Jiaxing Xie (中華人民共和国), 今田匡彦 (日本) によって, 今回のテーマが話し合われた。伝統とポピュラー・カルチャーの狭間を揺れ動く音楽教育を, ポリシーの視点から分析してみよう, と, 何度かのメールのやり取りで落ち着くに至った。デジタル・テクノロジーと文化の有機性, その進化は音楽教育とどのように関わるのか, 政策を実践していくにあたり, そこに期待される展望, 同時に限界は何か, などさまざまな討議が期待される。音楽教育政策, 文化, メディアを多角的に扱うこのセミナーの性格上, 参加者は音楽教育学者のみならず, 政策立案者, 行政官, そして大学院生など, 異なる背景を持っている。また, 少人数の参加者による時間をかけた討論は, これまでもとても充実したものだ。特に前回のボローニャで特別に発表時間を得た大学院生たちの, その後の研究成果を知る上でも, 良い機会となることだろう。

1-8 「40年の歩み」の編纂を終えて

編集委員長 岩崎洋一

「40年の歩み」については, 2年前より40周年記念誌作成委員会を発足させ, 1999年から2008年までの学会の歩みを, 「40年の歩み」と題してまとめる作業を進めてきました。今年度, 広島大学で開催された総会で, 総会資料の一部掲載が残るものの, 編集がほぼ終えたことの報告ができ一安心しているところです。編集にあたっては, 学会の全体像が把握できるデータとしての抽出作業と整理を行ってきましたが, 苦労したことは, 学会誌や研究発表等のまとまった出版物と違い, 活動記録としての写真の存在は, その時々のエポックとしての記録性があるだけに, 時間の経緯とともに過去に遡って集約する難しさが伴ったことです。最終的には多くの方々のご協力で, その時々臨場感に富んだ内容を盛り込むことができましたが, 毎年の大会やゼミナールの記録を継続して収集しておくことの必要性を強く感じた作業でした。

この10年間を見るとき, 新たな企画として, 『音楽教育実践ジャーナル』『ニューズレター』が立ち上がり, すそ野の広い音楽教育を目指すとともに, 情報の共有を図ってきたことを感じるところです。また, 編集の作業にあたっては5人の委員が分担して進めましたが, 最終のまとめ等, 津田委員のかかわりが大きかったことを紹介して, ご報告とします。

2 第40回大会（広島大学）の報告

2-1 第40回日本音楽教育学会大会を終えて

大会実行委員長 吉富巧修
同 事務局長 三村真弓

2009年10月3日（土）～4日（日）に、東広島市の広島大学において、第40回日本音楽教育学会大会を開催しました。

前日の激しい雨とはうって変わって、両日とも天候に恵まれ、約400名の会員および当日会員の方々に参加していただきました。

発表に関しましては、研究発表が101件、共同企画が2件となり、おそらく過去最多の発表数となったのではないかと思います。このほか、常任理事企画のプロジェクト研究が2件、大会実行委員会企画が2件（基調提案&講演、ワークショップ）あり、さらに40周年記念行事も盛大に行われました。40周年記念行事では、山本文茂先生の記念講演と韓国音楽教育学会会長のミン・キョンファン先生の記念講演があり、また学会賞の授与式も行われました。大会実行委員会企画では、ハンガリーからパヨル・マルタ先生にお越しいただき、講演とワークショップを行っていただきました。国際色豊かな大会になったことをたいへん嬉しく思います。

第1日目夜の懇親会では、酒都西条らしさを味わっていただくために、酒樽の運び込み・鏡開き、そして保存会の方々による酒祭り歌を楽しんでいただきました。ご参加いただいた方々、西条の日本酒はいかがだったでしょうか？

会場が、私どもの所属しております教育学研究科ではなく、社会科学研究科になりましたために、不慣れな場所でいろいろと不手際もありましたが、会員の皆様のおかげで何とか大会を終えることができました。準備の不手際をたくさんフォローしてくださった学会事務局の方々と事務局長の齊藤先生、本当にありがとうございました。また、手伝ってくださった実行委員の先生方に本当に感謝いたしますとともに、骨身を惜しまず気持ちよく手伝ってくれた、私どもの院生や学生にも感謝したいと思います。学生たちにとっても、とてもよい経験になったことと思います。

最後になりましたが、東広島市という辺鄙な場所にもかかわらず、全国からおこしいただきました参加者の皆様方に、心よりお礼の言葉を申し上げたいと思います。第40回大会が無事に終了いたしましたのも、皆様方のおかげです。本当にありがとうございました。

2-2 第40回全国大会に参加して

樫下達也（大阪府岸和田市立大宮小学校）

私は、大学院修士課程において音楽教育史研究と作曲を専攻した後、小学校の現場に出て現在4年目の教員として本学会に在籍させていただいております。本稿では、その立場から、今大会に参加して考えたことや得たものについて書いてみたいと思います。

広島大学の、文字通り広大で開放的なキャンパスで行われた今年の全国大会は、口述発表が過去最大の103を数える大規模なものとなりました。両日とも穏やかな天気めぐまれたうえ、緑多く、さわやかな風の吹き抜ける会場だったこと、そして何より広島大学の先生方、学生の皆さんがつねに笑顔で受付その他の対応をしてくださったこともあり、とにかく心地よく、楽しい充実した2日間を送ることができました。

さて、全国大会のプログラムのメインは、やはり各方面からの研究成果が報告される口述発表だろうと思います。私が大きな刺激を得たのは、音楽教育史研究のフロアでした。歴史研究において著名な先生方、同世代の研究者の方、現場教員をしながら研究を続けられる方、学生のみなさんなど、様々な人々が発表し、質疑応答ではそれぞれの立場からの質問がなされ、一つひとつの研究がもつ今後の可能性について、熱い議論が繰り広げられました。現在の日本の音楽教育の基礎が作られた戦前の歴史、そして、まさに今日の教育現場と――つまり、その3日前に私が行った音楽の授業とも――地続きの戦後史。

一つひとつの教育活動がどのような歴史的背景をもって目の前の子どもたちに差し出されているのか、ということを考えることはとても重要だと思います。そうしたことを考えさせてくれる場として、口述発表を拝聴することは、小学校の教員をする私にとって、とても重要なことのように思われます。もちろん、歴史研究だけではなく、比較研究の発表も、フィールドワーク研究の報告も、すべて、自分が行っている教育活動のどことどのようにリンクしてくるか、ということを考えさせられました。

2日目の「プロジェクト研究Ⅱ」では、現代音楽を音楽教育で扱うことの可能性が探られました。作曲を勉強していた私にとって、現代音楽を子どもたち

とどのように楽しむか、ということは普段からの関心事です。このパネルディスカッションにおける中村氏、寺内氏、中地氏の3氏による、フロアを巻き込んだ議論を心ゆくまで味わいました。今回はシリーズの第1回、ということもあり、「現代音楽」そのものをどのように定義するか、という議論が中心となっていました。来年の第2回にはその現代音楽が音楽教育においてどのように展開されていくべきか、という議論へとさらに発展していく予感があり、期待がふくらみます。ここでもまた、実践へのヒントを多く見つけることができました。

また、今年は40回目という節目をむかえ、「40周年記念講演」も行われました。山本文茂先生のご講演では、本学会の歴史の概略が語られました。学会史を3期に分けて語られた山本先生によれば、歴史が下るほど現場教員が本学会の研究に多様な関わりを持つようになってきたそうです。本学会において、今まさに蓄積されている基礎研究や理論を、現場での実践にどのように生かすのか。あるいは現場の実践をいかにして研究の場に返すのか。私のように教育現場で子どもたちと日々向かい合う学会員の立場には、そうしたことを考え続けることが求められているように感じました。

全国大会における楽しみは口述発表やパネルディスカッション、講演だけではありません。休憩中の昼食を食べながらのちょっとした雑談や、第1日目のプログラム終了後に行われる懇親会への参加も楽しいひとときです。各地から集まった諸先生方や同年代のみなさんと数ヶ月ぶり、場合によっては1年ぶりにごあいさつをし、あるいははじめてお話をする機会となります。口述発表では時間切れとなった議論がこのような場で続いている場合もありますし、同年代の方々の各方面での活躍、またその研究についてお話を聞くことは、研究者として未熟者の自分には、とても大きな刺激となります。

今大会に参加し、小学校の音楽教育の現場に身を置く学会員として、微力ながらもできることをしていこうという決意を新たにすることができ、また研究者として、いろいろなアイデアや刺激を得ることもできました。こうしたことは全国大会のみならず、地区例会その他のいろいろな交流の場でも得ることのできるものではありませんが、40周年記念となった今大会では、とりわけ大きな歴史の流れの中に現在の自分を位置づける機会を与えられ、今後の実践に大きな意欲を持つことができる2日間となりました。

3 海外トピックス

3-1 オーストラリアから学会のご案内

松信浩二

このたびオーストラリアのクイーンズランド大学にてマーガレット・バレット教授のもと研究を続ける機会を頂きました。(アメリカ留学中にお世話になった方々には心より感謝申し上げます。) まだ慣れない環境ではありますが、自分の分かる範囲でオーストラリアに関する情報を発信できればと考えております。今回は学会のご案内です。

最初に CDIME (Cultural Diversity in Music Education 「音楽教育における文化多様性」) の第 10 回大会についてです。シドニー中心部に位置するシドニー大学音楽院で 1 月に開催されます。前大会はシアトルのワシントン大学で行われ、音楽教育者と民族音楽学者が集って学びあう場となっておりました。学校教育に関わる研究発表のほか著名な民族音楽学者による実践形式のワークショップなどもありました。もともとヨーロッパから発した学会ですが、今回はオーストラリアのメンバーが中心となって企画を行うようです。基調講演もオーストラリアの研究者が中心となって行います。詳しくはホームページでの案内をご覧ください。

<http://www.usyd.edu.au/news/music/784.html?eventid=4247>

次に来年 11 月にクイーンズランド大学で開催されるナラティブリサーチに関する学会です (NIME, Narrative Inquiry in Music and Education)。アリゾナ大学における前回および前々回の大会を受けて今回が第 3 回目の学会となります。(これまでの成果はスプリングーから出版された Narrative Inquiry in Music Education, 2009 において報告されています。) 今回も充実した基調講演が組まれているようです。トム・バロン教授のような教育研究におけるナラティブの専門家から、詩人、そしてナラティブを素材に音楽を書いている作曲家らが講演を行う予定です。北米の研究者に比べてオーストラリアの音楽教育研究者は質的な研究 (それから mixed method) に重きを置いている感があります。オーストラリア開催ということで過去の学会とは性格の異なる研究発表が見られるかもしれません。詳しくは <http://nime3.com/> をご覧ください。クイーンズランド大学のあるブリズベンの周辺には観光名所も多数ございます。是非参加

をご検討ください。

オーストラリアの国内学会としてはオーストラリア音楽教育学会 (ASME) があります。次大会は 2011 年にゴールドコーストで開催されるようです。オーストラリア・ニュージーランド音楽教育研究協会 (ANZARME) の年次大会も予定されています。過去には音楽と幸福 (well-being) といった (北米で珍しい) テーマの発表などが見られました。またオーストラリアは幼児教育研究が盛んな所です。音楽療法の分野でも優れた研究者が多数いらっしゃいます。コダーイ・メソッドが学校教育で広く用いられています。こういった分野での発表も期待されるところです。

これまでオーストラリア・オセアニアの情報はあまり発信されることがなかったように思います。実はオーストラリアと日本とでは共通する点が少なくないようです。アジアに近いということを日々のなかで感じます。これからオーストラリアの動向に注目されてみてはいかがでしょうか。

松信浩二 k.matsunobu@uq.edu.au

4 会員便り

4-1 名誉会員から

広く世界に学ぼう

高萩保治 (平成元年度～平成 4 年度会長, ISME 名誉会長)

このたび名誉会員に推挙されましたこと、ありがたくお受け致します。

グローバル化
地球村と云われるように、国家間の相互依存の関係が強くなってきた今日、生涯学習社会の教育など共通する諸問題についての取り組みを含めて、ISME 世界大会は多くの示唆を与えてまいりました。というのも、ISME 理事会と主催国とが、その時々の世界の教育界で重視されるキーワード等をふまえて世界大会の総主題を決定し、主催国と共に多彩なプログラムを企画してまいりましたので、各国から ISME 大会に参加して、自分達の音楽教育を考えるきっかけをつかんだという、所謂、国際的に眼が開かれたという人たちが多くなって来たことを、たいへん喜ばしく思います。

次の第 29 回 ISME 世界大会は、2010 年 8 月 1 日から 6 日まで中国の北京市で「協調と今後の世界」というテーマで開催されます。大会主題に応じて用意される基調講演・シンポジウム・研究発表や昼夜にわたって開催される世界の国々から参加の演奏グループによるコンサートを中心に、音楽学習のワークショップや音楽指導のデモンストレーションなど多彩なプログラムが用意されるとの事であります。

1992 年の韓国大会で日本から 340 名の教師が参加しましたが、オリンピック開催などでよく整備された北京市での「ISME 大会 2010」は 8 月 1 日から 6 日までの夏休み中でもありますので、日本の音楽教師達が多数参加されるよう希望致します。

学会 40 周年に寄せて

富永 定（平成 5 年度～平成 8 年度会長）

この度、日本音楽教育学会から、名誉会員にご推挙頂きましたこと、心から感謝し厚く御礼申し上げます。私は、93 年から 96 年まで、高萩会長の後を 2 期 4 年間、会長職を務めさせて頂きました。

当時は東京学大の中に事務局があり、理事会等の会議も、教室をお借りしておりました。この間、学会事務局長・事務の皆さんには大変ご苦勞をお掛けしましたが、数年後、独立した事務局を持つことができました。

学会運営にあたっては、会員の皆様の自由な研究・論文発表の保証を第一に考え、論文の審査・学会誌の編集等、編集委員の方々のご苦勞には、深く感謝いたしております。

更に、年一回の大会には、各地域の大学・音楽科にお引き受け願ひ、一年前から会場・分科会・広報等の計画運営を頂きました。

私が会長の間は、93 年 10 月 8 日～10 日（岡山大学）、94 年 10 月 9 日～11 日（東京学大）、95 年 9 月 29 日～10 月 1 日（愛媛大学）、96 年 10 月 11 日～13 日（金沢大学）に主催をお願いし、それぞれ特色のあるプログラムを組んで頂き、大会の成功をみました。今でも会場での、教育・学術の問題に、活発な議論が交わされた、会員の皆様の真剣な様子が、昨日のこの様に思い出されます。

あれから、十数年、世界や、日本は急激に変化し、何を頼り所として生きて

行けばよいか考えこむ事もしばしばです。

しかし、どのように世の中が変化し、学問の方向性が変わろうとも、人間が人間を教育して国の基礎を作り上げるという理念、仕事だけは変わらないと思います。

この貴い仕事に従事される音楽教育学会会員の皆様のご努力こそが、明日の日本を築くものと確信しております。

〈名誉〉というほどの・・・

山本文茂（平成 11 年度～12 年度会長）

第 40 回広島大会総会で〈名誉会員〉というずっしりと重い称号をいただき、うれしくもあり恥ずかしくもありといった心境です。〈名誉〉というほどの活動や業績を残したとはとうてい思えないからです。本学会にける私の略歴は以下の通りです。

- 1975 (50) 入会（会員番号 553）
- 1976 (51) 誌上発表「音楽教育現代化の展望」No.6
- 1979 (54) 『音楽教育学の展望』（分担執筆）「音楽教育の方法・高等学校」
- 1981 (56) 第 12 回大会シンポジウム・パネリスト「生涯教育としての音楽教育」
- 1982 (57) 第 1 回・第 2 回〔1985 (60)〕ゼミナール実行委員
- 1985 (60) 教育課程研究推進委員（1985～1987）
- 1987 (62) 第 17 回大会課題研究「音楽科教育課程の開発に関する基礎的・総合的研究」
- 1988 (63) 第 18 回大会シンポジウム・パネリスト「学校の音楽を考える」
- 1990 (02) 第 20 回大会課題研究「自由な発想による即興的自己表現」パネリスト
- 1991 (03) 『音楽教育学の展望Ⅱ』（分担執筆）「1980 年代の音楽教育研究」
- 1999 (11) 会長（1999～2001）

たくさんの思い出の中でも、二つのできごとだけは忘れられません。一つは、2001 年 10 月に予定していた沖縄・琉球大大大会が、直前になって同学附属図書館で「白い粉」が発見されたため、急遽大会中止を決めたことです。幸いにも炭疽菌鑑定は陰性でしたが、琉球大学の皆様や参加予定の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。もう一つは、『日本音楽教育事典』の発行が 4 年も遅れてしまったことです。執筆者の皆様や会員の皆様に、当時の会長として改めてお詫びを申し上げます。

4-2 学会賞を受賞して

勝岡（藤波）ゆかり

この度は、日本音楽教育学会 第1回学会賞の受賞というこの上ない荣誉に浴し、心からありがたく、感謝しております。

受賞論文は、箏曲の楽譜が大正から昭和にかけてどのように普及していったのか、その歴史的過程を明らかにしようとしたものでした。今から5年前、平成16年に武蔵野音楽大学で行われた、日本音楽教育学会 第35回全国大会で口頭発表させていただいたものを、後に研究論文として発展させたものでございました。まさかこのような賞をいただくことになろうとは思ってもよらず、大変、感激いたしております。

5年前に発表した際には、司会の先生やフロアで聞いてくださった先生方が、私の発表に対して質問を投げかけて下さったり、様々な助言を与えて下さいました。そのような経験を通じて、少しずつ研究の世界にも導かれ、学会や全国大会という場が研究の進展に与える役割も感じさせていただきました。多くの先生方への感謝の思いを出発点として、研究を継続できましたことを、とても幸せなことと感じております。

受賞論文は箏曲教習の歴史を扱っておりますが、箏曲は日本の音楽の様々なジャンルの中でも、ある意味で最も西洋音楽に近い分野だと感じております。だからこそ、その歴史的研究は、近代的価値観の日本音楽への影響、受容を考える上で、不可欠なのではないかとの思いから本研究に取り組みました。この度、素晴らしい賞をさせていただいたことにより、明治以来の日本の伝統的な音楽の変容とその中に継承されてきた文化的本質を、どのように理解して受け止め、今後を受けついでいけばよいのか、という課題を、これからも微力ながら追求し続けていきたいとの願いと勇気を与えられました。

こうした大きな課題を解決するには、これからも皆様に一層のご指導をいただきつつ、益々の努力を重ねていかなければならないことを痛感しております。どうか今後ともご指導、ご鞭撻いただきたく、よろしくお願い致します。

この度はこのような栄えある賞をいただき、今後に向けて大きな勇気と希望を与えていただきましたことに、心より感謝しております。

日本音楽教育学会の創立40周年を記念した、第1回学会賞という名に恥じぬよう、今後とも一生懸命、精進して参りたいと思います。歴史ある本学会から、素晴らしい賞をいただいたことへの深い感謝と決意を以て、ご挨拶にかえさせていただきます。

5 新刊紹介

5-1 『音楽教育学の未来 —日本音楽教育学会設立 40 周年記念論文集—』

日本音楽教育学会編
音楽之友社, 2009 年 10 月刊行
全 407 ページ, 3000 円+税
ISBN:978-4-276-31109-1

寺田貴雄 (北海道教育大学)

どの学問領域でも、研究の蓄積によって研究対象がより詳細に探究され、結果として、その学問領域自体が細分化されていく。現代の学術研究において、学問領域の細分化は「発展」を意味しているように思える。しかし、しばしば指摘されるように、細分化された研究は、あたかも、蝸壺に籠もり壺の中だけを見て海が見えなくなってしまうように、その学問領域全体が見えなくなる危険も伴っている。

日本音楽教育学会が設立されて 40 年になった。その間、日本の音楽教育学研究はより細分化され、その点では確実に発展したと言えよう。けれども、今日の細分化された研究が「蝸壺化」しないように、音楽教育学の世界で自分の研究がどこに位置づけられるのか、音楽教育学の地図上のどこに自分は立っているのかを、ときどき確認することが極めて重要に思う。その際、自分の立ち位置を確認するガイドブックがあれば、便利であることは言うまでもない。

『音楽教育学の未来』は、歴史、知覚・認知、乳幼児、学校教育、社会教育・生涯教育、障害と音楽教育/音楽療法の 6 つの分野から、音楽教育学の世界を鳥瞰できる論文集である。本書の大きな特徴は、各分野を担当する 6 名の編集者によって、各章のはじめに、1998 年から 2007 年の 10 年間の研究動向がまとめられていることであろう。この 6 名のナビゲーターによって、現代の音楽教育学において、自分の研究がどこに位置づけられ、自分の研究の周辺には何があるのかを教えられる。研究者自身が気づかなかった視点や、あいまいであった研究の広がりも意識することができる。これによって私たちは、音楽教育学の世界全体を眺め、研究の蝸壺化を回避し、未来に向けて歩き出すことができるのである。

勿論、本書の主役である、投稿による研究論文 22 件は、いずれも最前線の研究であり、音楽教育学研究の現在の姿も教えてくれる。

本書は、音楽教育学の過去を見たい人にも現在を見たい人にも、また未来の可能性を覗いてみたい人にも多くの情報を与えてくれるだろう。音楽教育学に携わる全ての人に、本書をお薦めしたい。

6 事務局より

6-1 お知らせ

- 1) 年会費未納の方には、「払込取扱票」を同封しますので、至急お振り込みください。
- 2) 住所変更された方は、学会事務局に FAX または E-mail でお知らせください。
- 3) 事務局では、会員データ管理システムに登録されているデータの再確認を行っています。お手数をおかけしますが、同封のハガキ「事務局からのお願い」をご覧ください。

……【編集後記】……

学会創立 40 周年を飾る今年の大会は、広島大学の皆様のご尽力のおかげで楽しい中にも実りの多い大会だったと思います。旧知の顔を久しぶりに見つける喜びを感じると共に、フレッシュな研究者の真摯な研究姿勢に我身を振り返った二日間でもありました。

特に 40 周年記念行事での山本文茂先生の記念講演では、たくさんの資料を基にお話しいただきましたので、各大会での様子をその土地での楽しい思い出と共に懐かしく振り返ることができました。同時に、私事ながら、私自身の一番最初の発表が山本先生の分類の第Ⅱ期の一回目の大会であることに気付き、月日の速さに愕然ともなりました。多くの若い研究者に混じって、自分自身も常に研究者としてフレッシュな感覚を持ち続けていたいという思いを強くした二日間でもありました。

2010 年もまた皆様にとって良い年になりますように、そして学会にとっても次の周年に向けて新しい歴史を作る一年となりますように！

(嶋田由美, 北山敦康)

<平成 20~21 年度 日本音楽教育学会役員>

会 長：吉田 孝

副 会 長：北山敦康

常任理事：齊藤忠彦（事務局長），嶋田由美・津田正之（総務），田中健次（会計）
小川昌文・杉江淑子・三村真弓（企画），八木正一（編集）

理 事：尾藤弥生（北海道），降矢美彌子（東北），佐野 靖・筒石賢昭
坪能由紀子・藤沢章彦・本多佐保美（関東），新山王政和（東海）
安田 寛（近畿），吉富功修（中国・四国），岩崎洋一（九州）

会計監事：奥 忍・今川恭子

事 務 局：亀山さやか・山本由紀子・徳山菜央・光平有希

<日本音楽教育学会事務局>

【事務局本部】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

日本音楽教育学会事務局

TEL&FAX 042-381-3562

E-mail onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日：月・水・金 10:00~16:00

【事務局編集担当】

所在地：〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座

権藤研究室気付 日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕

E-mail jmesedit@hiroshima-u.ac.jp